KSKR パンジーだより　No.79　第三種郵便物認可　通巻第 7060 号　2016 年 11 月 4 日発行

KSKR パンジーだより

一九九六年五月一日　第三種郵便物認可　毎月（一・二・三・四・五・六・七・八の日）発行

もっと知ってほしい、私たちの思い！

7月26日、相模原の障害者施設「津久井やまゆり園」で障害を持った男女19人が元職員に刺され亡くなりました。この事件についてパンジーの当事者は次のように語っています。「大きなショックをうけています。犯人は、障害者なんていなくなればいいんや、と言っていたそうですが、障害者は生きていたらあかんのか、腹が立ちます。殺されるためにうまれたわけじゃない。くやしいです。」

事件が起こった日から、私たちは何をしなければならないのかを問い続けました。その過程で、知的障害を持つ人たちの置かれている状況やくらしが、社会にあまりにも知られていない事に気づきました。

これからは、タイムリーに誕生した「パンジー・メディア」インターネット放送を通じて、私たちのことをもっと知ってもらうために、情報発信に力を入れます。これまで以上に知的障害を持つ人が、社会の中で、一人の人間として出会うための活動に力を注ぎます。

そのことが、障害者と健常者の間に存在する見えない垣根が低くなり、今回のようなことが起こらない社会の実現につながっていくのだと考えています。

（林　淑美）

PF分科会

パンジーが担当した３つの分科会を紹介します。
３つの分科会のテーマは当事者からの発信です。

「自分の歴史を話そう」・・・ふるえる手で原稿を持ってスピーチに挑戦

分科会の担当は野々口さんと冨田さんでした。分科会を終えて野々口さんは「肩がカチカチだったけど、『リラックスして』と言ってくれたことでよくなった。来年はスピーチの時間を多くとって、もっと多くの人に話してほしい！」と振り返っていました。冨田さんは「練習したことがうまくできて、みんなが良く聞いてくれた。みんなが感想や意見を言ってくれてうれしかった」と話していました。

印象的だったのは、参加していた当事者が自分で作ったスピーチ原稿をふるえる手で持って発表している姿でした。「私は人前で話すのがにが手です」と言っている方もいました。それでも勇気を出して手をあげてスピーチに挑戦した参加者。そして講演を広めたい！　という想いでがんばった担当の２人。きっとどちらにも大きな自信がついたと思います。（岸田）

「元気がでる話」・・・自信をつけるには、自分を好きになることから

パンジーの人たちと練習を重ねてきました。「自分の思いを人に伝えるには勇気と自信がいる。自信をつけるためには自分を好きになることから始めよう」ということが、この「元気が出る話」の原点にあります。この大会でも、それを見ることができ感動しました。リーダーの感想を一部紹介します。

野村：「私はかっこいい」の時が一番盛り上がった。みんなかっこいいことを話してくれた。**岡本：**前向いてよかった。アイムハッピー大きく言えた。みんなたくさんでやったら盛り上がるし、僕も元気になった。

髙田：１５０人の前で緊張せず言えたことと、熊本のＴさんと友だちになれたことがよかった。あんな大勢の前でやったのは初めて。

伊藤：友だちになれた、みんなと。リーダーみんなかっこよかった。　（西尾）

「パンジーメディア分科会」・・・私たちのことをもっと知ってもらいたい

パンジーメディアは私たちの事をもっと知ってもらうために作りました。９０人程の人が集まり、パンジーメディアの紹介とビデオカメラを使ったワークショップをしました。

豊田：ワークショップで闇の王の衣装を着てモデルをした。怒る演技をしたらうまく言えた。僕は劇がやりたい。僕にもできるし。分科会はわいわいして楽しかった。僕から話しかけたし、いろんな人としゃべれた。

辰己：ワークショップで天使のモデルをした。分科会は、たくさん参加者が来てて緊張した。参加者に衣装でモデルになってもらったら、みんな喜んでたからよかった。僕が天使の役をやって、見てたらやりたくなったんだと思う。やってよかったと思ってくれたと思う。僕はメディアをやって、楽しかったと伝えた。いろんなことができるよと伝えたい。　（下川）

KSKR パンジーだより　No.79　第三種郵便物認可　通巻第 7060 号　2016 年 11 月 4 日発行

ピープルファースト大会in横浜

９月２１日、横浜で第２２回ピープルファースト大会が開かれ、約１０００人の人が集まりました。全体会は、相模原市の入所施設「津久井やまゆり園」で起きた事件のことがテーマになりました。

４人の実行委員の当事者が舞台で行ったパネルディスカッションでは、入所施設のこと、地域で暮らすこと、匿名報道のことが話され、会場からも共感の声が上がりました。そうして全体会の最後に行われたのは事件で命を奪われた人への献花でした。大会に参加したすべての人が折り鶴を献花台にそえました。

「一人ひとりしっかり輝く人生がある。そのために生まれるんです。障害があっても生まれてよかったと思える社会を作らなければならない」。パネルディスカッションでのピープルファースト北海道の土本秋夫さんの言葉です。この言葉が深く心に残りました。「障害者である前に一人の人間だ」。ピープルファーストの根底でもあるこの思いを社会に伝えていくために、今後も当事者と一緒に頑張っていきたいです。パンジーの当事者の感想を紹介します。（山根）

事件はダメと思った。（TV や新聞の）カメラがいっぱいで緊張した。（川口）

全体会で中山さんとかみんなの話を聞いて、すごくとてもよかったです。特に差別のところ。やっぱり絶対にこういう事件をなくしたいと思っている。（井道）

楽しめた。献花できてよかった。（大城）

わかりにくいこともあったけど、ずっと聞いてたらわかることもあった。やまゆり園の事件の話聞いて、あんなことがあったらあかんと思った。昔は施設にいてて、今はＧＨでとっても良いって手あげて発言できてよかった。（野村）

大藤園の分科会に参加した。こんな事件は２度とないようにピープルファーストはある。入所施設も増えすぎだと思う。
やまゆりの事件はゆるしたらあかん。ひどすぎる。ピープルファーストをもっとひろめて応援していきたい。やまゆり園の当事者も、大藤園の当事者もピープルファーストに入ったらどうかと思っている。（生田）

ちょっとひどすぎるなぁと思う。パンジーで殺しとか出たらひどい。怖くてよう通わん。怖い人を捕まえたら通えるようになる。勉強になった。鶴置いたのが一番悲しかった。人の別れが。（樋口）

知的障害を持つ人が発信する放送局

パンジー♥メディア

１回目のインターネット放送がいよいよ始まりました！　番組は、５つのコンテンツをスタジオのキャスターがつなぎます。笑いあり、涙あり、考える時間あり、知的障害を持つ人たちが、番組を通して自分たちの思いや考えを社会に問いかける内容となっています。

その一つ、冨田さんの「私の歴史」を担当しました。原稿作りは、まず冨田さんに話を聞きながら文字に起こしていきました。しかしはじめはなかなか思い出が出て来ず、悩んでいることばかりでした。そして冨田さんが私と目を合わせてくれていないことにも気付きました。私は原稿ができるのかとても不安になりました。しかし何度も話し合いをしていくことで、少しずつ会話が増え、思い出が出てくるようになり、原稿が充実していきました。放送時間の関係で完成した原稿の半分くらいはカットになりましたが、本番では一生懸命読んでいたのが印象的でした。

撮影が終わるころには冨田さんとたくさん会話するようになっていました。今では、「メディアで忙しいなあ」「今日もⅢに行くんか？」と、笑いながら話しかけてきてくれます。そして、完成試写会の日、観に来ていた冨田さんは終わった後、ハイタッチをしに来てくれました。

私は冨田さんと一緒に成長していたんだと改めて思いました。今後もメディアの活動という、当事者と新しい共同作業ができる事を楽しみにしています。

始まったばかりのメディアです。当事者と支援者がどんな風に成長していくのか、社会に向けてどんな発信をし続けるのか。皆さん、応援よろしくお願いします。

（里中）

試写会を終えて、みんなの感想です！

・闇の王がよかったです。（久山）
・自分も出ていててれくさかったけどかっこよかった。恋愛もののドラマをやってみたい。（辰巳）
・パンジーカフェがよかったです。ドラマとか１回出てみたい。（加藤）
・カメラマンをやってみたいと思います。お料理のカメラマンをやってみたい。（谷口）
・みんなかっこよかった。出たいです。（伊藤）

１ヶ月に１回、番組を新しく放送します。
ぜひ、見て下さい。
http://pansymedia.com/

KSKR パンジーだより　No.79　第三種郵便物認可　通巻第 7060 号　2016 年 11 月 4 日発行

ヒマラヤへの一歩をふみだした！

ヒマラヤプロジェクト

前回の「パンジーだより」でお伝えした「ヒマラヤプロジェクト」。遠い道のりの一歩をふみだしました。まず、みんなが身近に感じる「生駒山」から始め、２回目は大和葛城山から金剛山への道を歩きました。金山は大阪で一番標高の高い山です。「ダイヤモンドトレイル」と呼ばれるこの道は、急な下り道や、登りが続き体力的にはとてもハードでした。そして３回目は「山辺の道」でした。こうして登山を重ねることで、山のことについて何も知らなかった私たちが、自然の中を歩く楽しみや、山に登るうえでのルールを学ぶことができてきました。

メンバーの中でも、途中でくじけそうになる人がありましたが、仲間同士、はげましながら、最後まで歩ききることができました。達成感に満ちた笑顔がとても眩しかったです。ゴールに到着して乾杯して飲んだサイダーの味は格別でした。

ヒマラヤへの道はまだまだですが、経験を増やし一歩一歩近づきたいと思います。（山本）

生駒山にて

前の日まではすごく楽しみ。行く日の朝は少し不安だけどみんなに会えるとやる気が出てきて、歩いている時は楽しい。（伊藤）

くたくたになって足が痛かったけど、みんなで一緒に歩けたことが楽しかった。（豊田）

２時間も下りが続く。
まさに「地獄坂」を歩ききった。

最後まで歩けてうれしかった。
帰って飲んだビールがおいしかった！（野々口）

各場だより

パン作り 仕込みまっせ！

パンジー

これからパン屋の活動は活発になってきます。学校やイベントでの販売、小学校のパン実習など、特に忙しい時期になります。

パン屋の当事者は、このイベントを楽しみにしていて、イベントが近づき、作業が増えるにつれて、活気も出てきます。「もうすぐふれあいのつどいがあるからいっぱい作らな！」「今年の文化祭はどのぐらい売れるかな」と作業中の雰囲気も盛り上がっていきます。

さらに毎年やってくる小学生のパン実習の事を、生田さんに聞いてみました。「子どもたちは、熱心にやっている子もいれば、嫌々やってる子もおる。パン屋をやりたいという子の中には手つきが器用な子もおる。昔の子たちはやんちゃで、よく職員や先生に怒られてたな。今の子の方がおとなしいし、真面目やな。地域の子供たちがパンジーにきて一緒に作業をするのは、いいなと僕は思ってる。道で子供たちが『あのおっちゃん、パン屋さんや。パン教えてくれてありがとう』とか声を掛けてくれるとやっぱりうれしい。真面目にやる子には、パン作りを仕込んであげるので、どんどんきてほしい。僕はまだまだ、パン屋さんにいるので、いつでも顔を出したらええ、と思ってる」

パン実習の予算日程など相談に乗りますので、興味のある方はご相談下さい。見込みのある人には生田さんがパン作りを仕込んでくれるそうですよ。（藤木）

人は変わる、それを信じて

パンジーII

「全国のなかまと出会い、自分はひとりではないんだ、勇気を出してピープルファースト大会に参加してよかった。また来年も参加したい」と閉会式で涙ながらに訴えている当事者に感動したのは、数年前の札幌大会閉会式でした。

僕が普段関わっている小松原さんだったら「参加できてよかった」と感激してくれるだろうか。慣れた人となら誰とでも会話が楽しめるのに、対外的なイベントの呼びかけには、頑なに拒否をする彼の姿に、寂しい気持ちを抱いていました。

しかし彼のような人が、積極的にＰＦ大会などに参加し、先頭に立ってみんなをリードできたらどんなにすばらしいことか、いつの日かそんな日が来ればとの願いは、しぼむことはありませんでした。

さて、今年の「ＰＦ横浜大会」。２日目の「元気が出るはなし」の分科会では、なんと彼が最前列に座っていたのです。そればかりか積極的に手を挙げて「好きなことは京阪電車の絵を描くこと」「自分はパニックと日々闘っている」と２度３度とはにかみながらも誇らしげに自分の言葉で発言したのでした。

昨年の神戸大会では、開会式がはじまるとすぐに退屈して、大会に集中するどころではなかったのに…。今回はどんな気持ちで参加できたのだろう。主体的積極的に参加している小松原さんの姿に、改めて人とはデリケートで、まだ見たことのない彼の姿に出会えることがあるのかもと思ったのでした。（出原）

KSKR パンジーだより　No.79　第三種郵便物認可　通巻第 7060 号　2016 年 11 月 4 日発行

食べること

パンジーIII

今年の４月から職員として働いている枡谷奈穂です。当事者と一緒に厨房での仕事をしています。

私はパンジーで働き始めて、栄養バランスのとれた季節感のある食事をすることが、健康に過ごせることにつながるのだと感じるようになりました。毎日同じ時間に食事をする事で、生活のリズムをつくることにもつながると思います。

パンジーIIIでの当事者の仕事は、昼食の弁当をもり付けたり、食器の洗い物です。昼食の準備では、最初にどのおかずをもり付けるかを決め、協力して作ります。そして「今日のごはんもおいしそう！」と話したりしながら、昼食の時間を楽しみに仕事をしています。

洗い場の仕事をしていた立神さんも最近、もり付けに参加することが増えてきました。「もり付けできる？」と楽しみにしています。時には、トマトのへたを下に向けてもり付け（本当は上に向ける）、やり直しになったりすることもありますが、最後の一つまで、やりきります。

さて、いよいよ昼ごはんです。当事者からどのおかずをもり付けたか話す声が聞こえてくる事があります。また「嫌いなものは食べたくない」と話していた人が、もり付けに参加してからは「でも食べる」と変わりました。自分でもり付けた物が弁当に入っている事で、「食べてみよう」と思う気持ちが出てきたのだと感じました。

これからも食べることが楽しみになる弁当を届けられるようメンバーと力を合わせていきます。

（枡谷）

想いを形に

ハート

私がパンジーで働くようになって一年半が経ちました。働き始めてから常に目標にしていることがあります。それは、当事者の想いを形にすることです。そしてパンジーとしての想いや自分の想いを形にする目線を持ち続けることです。

Ｙさんは、落ち着かなくなると、大きな声が出たり激しい行動が見られます。Ｙさんは、想いをことばで表現するのが難しい方です。働き始めた頃は、Ｙさんの想いを感じる事ができず、あたふたしながら日々を過ごしていました。

きっかけは、保護者や他の職員から昔のＹさんの話を聞いたことです。こんなＹさんもいるのだと発見でした。その時、私があたふたしてしまうのは、Ｙさんの想いを感じられていなかったのだと思いました。そこからＹさんのことをもっと知りたいと思うようになりました。生育歴を読んだり、Ｙさんの子どものころの運動会のビデオを見たりしました。Ｙさんのことを知っていくと、表情や態度から、何を感じているのかということが少しづつ感じられるようになってきました。

しかし、Ｙさんの想いを受け取り、形にすることは、なかなか難しいです。支援者がいいと思っても、Ｙさんが心地よいと感じてくれなければ、想いを形にできたことにはならないと思います。

Ｙさんが楽しいと感じるのはどういった時か。その時間がどうしたら増えるのかを考えながら、これからもＹさんと一緒に、笑顔ですごせる時間をふやしていきたいです。

（石崎）

書き損じハガキ、（未使用）切手を送ってください！

ご家庭や会社などで書き損じのハガキ、スタンプを押していない切手など眠っていませんか？
当事者活動部門ではこれらを集めて活動資金にあてています。ご協力お願いします。
　川口和美・宮田程子・辰己隆・浜中正一・西村修一　（敬称略）

パンジーでは、後援会員を募集しています。

賛助会員　１口　1ヵ月　５００円　　本会員　１口　1ヵ月　1,０００円
特別会員　１口　1ヵ月　3,０００円　　郵便振替番号 00950-1-300551　ｸﾘｴｲﾃｨﾌﾞ ﾊｳｽ「パンジー」
後援会費をお振り込み頂いた方　　寄付金を頂いた方　（敬称略）
　ＡＫＡＭＥ　　西村学

伝言板

Facebook　いいね！をお願いします。
楽しい話題や情報を発信します。
https://www.facebook.com/soshien.pansy

一緒に働きませんか！
グループホームの生活支援員
当事者の生活支援です。
１泊 14,000 円～　手当年３回賞与
ガイドヘルパー
移動支援従業者養成研修の受講が必要です。
時給 1200 円　当事者の外出支援です。一緒に楽しんで下さい！

共同募金から、967,000 円の配分金がありました！
共同募金にご協力いただきました府民（寄付者）のみなさまに感謝します。
配分金はパン屋の冷凍冷蔵庫の新規入れ替え事業に有効適正に活用します。
★パン屋のメンバーの意気込み
見た目がよくなって感じがいいわ！　生きてる間はパン屋でがんばるで～！　最年長　生田

編集人
東大阪市東鴻池町 2－4－8
ｸﾘｴｲﾃｨﾌﾞ ﾊｳｽ　TEL:072-963-8818
「パンジー」　FAX:072-963-8825

発行人
関西障害者定期刊行物協会
大阪市天王寺区真田山町
２－２　東興ビル４階

編集後記
知的障害者は「施設の内でしか生きられない人」ではなく「地域で普通に暮している身近な人」。パンジーの取り組みを通して多くの人たちに伝えていきたい。（吉田）

一九九六年五月一日　第三種郵便物認可　毎月（一・二・三・四・五・六・七・八の日）発行　定価　一〇〇円